

# 春秋会

ニュースレター

2022.12

今月のニュースレターも豪華なラインナップでお届けします。  
皆さまからのご意見・ご感想など、広報委員一同楽しみにしています。

## 若手会企画に関するご報告

(東かがわグランピング)

別所 大樹(69期)

若手会主催の今期初の旅行企画『東かがわグランピング』が、11月5日から6日にかけて、ザランタン東かがわにて開催され、12名の先生方にご参加いただきました!

大阪弁護士会前に集合してバスでザランタン東かがわまで向かったのですが、車内では早速酒盛りが開始されており、着いた頃には皆出来上がっていました笑



### 今月の予定

- ・12/8(木) 19時 若手会「美食会」
- ・12/20(火) 12時 幹事会
- ・12/26(月) 18時 総会



ザランタン東かがわでは、海沿いのコテージで BBQ を楽しみました!



海を見ながらの BBQ はやっぱり最高ですね!

2022 年度 広報委員

- ・堀川 智子 (57 期、委員長)
- ・西原 和彦 (55 期、担当副幹事長)
- ・有村 とく子 (50 期)
- ・中森 俊久 (55 期)
- ・山口 昌之 (58 期)
- ・浦 寛幸 (59 期)
- ・広瀬 元太郎 (60 期)
- ・柳 勝久 (61 期)
- ・山田 寛子 (65 期)
- ・金 星姫 (66 期)
- ・木場 晶子 (67 期)
- ・田村 瞳 (67 期)
- ・板崎 遼 (67 期)
- ・吉留 慧 (68 期)
- ・高 一成 (69 期)
- ・根本 俊太郎 (70 期)
- ・佐久間 ひろみ (71 期)
- ・足立 敦史 (71 期)
- ・村本 健司 (71 期)
- ・河野 哲平 (71 期)
- ・才木 晴幹 (72 期)
- ・久井 大輝 (73 期)
- ・山本こずえ (73 期)
- ・佐々木 崇人 (74 期)
- ・神澤 鈴子 (74 期)

大浴場もついていましたので、BBQ の後は大浴場へ。飲んだ後のお風呂はこれまた最高でした笑



翌日はうどんの名店山田家さんでランチ! 二日酔いの中でも美味しくいただきました!





初の旅行企画、ご参加いただいた皆さん本当に楽しそうでした！  
やっぱり旅行に行くとより仲良くなれると思います！



今期の若手会では、今後も様々な企画を実施していく予定です。  
次回は、12月8日(木)19時、美食会を企画しております！  
皆様奮ってご参加ください！！

## 古典芸能よもやま話～落語について(3)

中村 和洋(49期)

### Ⅰ 八代目桂文楽とは

住んでいた場所から「黒門町」の呼び名で親しまれた、明治25年生まれの落語の大名人。ちょうど私が生まれた昭和46年に亡くなっているので、生前の姿をみたことは一度もありません。

それでも私が一番好きな落語家は、西では「桂米朝」、東では「桂文楽」。少し甲高い独特の声と江戸っ子の言い回し。同時代のライヴァルで、自由闊達(というより良い意味でいい加減)な芸風だった古今亭志ん生と比較すると、その芸風は端正かつ完璧。持ちネタは多くはありませんが、磨きに磨いた職人芸で、何度同じ噺を繰り返しても、秒単位で時間が変わら

なかったという伝説があります。

さりとして堅苦しいわけではなく、洒脱で、すごく女性にモテたそう。晩年に美しい女性と一緒に歩いているところを知人に見つかり、照れながら「ちょっと、こちらのご婦人をエスコートしております。」なんて答えたという。

根っからの関西人の私から見て、粹でいなせな、憧れの存在です。

## 2 「寢床」

桂文楽の代表作は、いくつかありますが、真っ先に上がるのが「寢床」と「明烏（あけがらす）」。まずは、「寢床」を紹介します。

「古い蜀山の狂歌に、まだ青い素人浄瑠璃、玄がって、赤い顔して黄な声を出すなんて悪口を言っております。昔はこの～、大変に義太夫てえもんが、流行ったそうでしたして・・・」という枕で始まります。

大きな商店の旦那。人柄が良くて商売上手。気軽にお金を貸してくれたり、気前もいい。唯一の欠点が、義太夫を人に聞かせたがること。先日なんて、義太夫を聞いた近所のお婆さんが高熱を出してしまい、医者から「原因不明だな。何かあったの?」、家族「あちらの店の旦那の義太夫を聞いてからこうなりました。」、医者「あ～。じゃあ、義太熱だ。」なんて始末。近所では、「人間の声じゃないね。あの旦那は、きっと先祖が義太夫語りを絞め殺して、呪われてるんだらう。」とまで言われています。

そんな旦那が、今晚もみっちり義太夫を語ろうとやる気を出しますが、長屋の店子は全員用事、店の従業員は全員体調不良。人を集めるように言われて手ぶらで戻ってきた従業員は災難で、「お前はどうかんだい。」と聞かれ、「私ですか。私はその・・・わかりました。義太夫を聞けばいいんでしよう。私は因果と丈夫です。さあ。お語りあそばせ。」と泣き出す始末。

すっかり機嫌の悪くなった旦那は、店子は明日12時限りで長屋を出て行け、店の者にも暇をやるのかなんとか、無茶を言い出す始末。そこを近所の気が利く人がなんとかとりなして・・・。

この落語の秀逸なところは、一節も義太夫を語らないこと。嬉しそうに細々と準備を指示したり発声練習をする旦那と、それに答える店の者とのやり取りで、いかに旦那の義太夫が下手なのかを表現します。なお、やり取りの中にある、旦那の「なら仕方ない。あちら様は仕事だ。こっちは、遊び（あすび）だよ～」という言い方が何とも粹で、私は好きです。

実際、桂文楽の趣味は義太夫だったそうですが、あまりうまくなくて、弟子はみんな逃げだしてしまい、弟子の奥さん連中が無理矢理聞かされていたとか。それで、よくこんな噺をするなあと思います。

私は、この落語はCDで何回聴いたかわかりません(100回近くは聞いたかも)。それでも、毎回、大爆笑してしまいます。何らかの方法で皆さんも聴いてみてください。

ほかに「寢床」を得意としているのは、桂枝雀。ずいぶんテイストが違いますが、こちらも爆笑です。

### 3 「明烏」

一転、「明烏」はお色気のある噺。

大きな店の若旦那。とても堅物で部屋にこもって勉強ばかり。心配した父親が、ちょっと悪い友人に頼みこみ、若旦那を「浅草の先にあるお稲荷さんへお籠り付きのお祈りに。」と騙して吉原に連れ出してもらいます。

最近、「鬼滅の刃」というアニメがあり、その「遊郭編」では吉原をモデルにした場所が舞台となっていました。すごく綺麗に再現されていました(いや、本物は見たことないんですが)。文楽の巧みな語りは、見たこともない、煌びやかで優美、そして退廃的な往時の吉原を想像させます。

途中で遊郭だと気づいて帰ろうとする若旦那を、連れ出した男たちがなんとかなだめていると、「まあ、可愛い」と絶世の美女の花魁が近づき・・・

この噺のすごいところは、その後の若旦那と花魁のきわどいシーンは全部カットして語られないところです。しかし、聴く者の想像によって、とても大人の色気を感じさせます。

さて、「明烏」とは新内節(しんないぶし)の名曲で、若旦那の時次郎と遊女浦里の悲しい恋のお話。最後はお決まり通り、心中してしまいます。落語の若旦那と遊女をこの二人に見立てると、滑稽さの中にも哀れさを感じて、とても味わい深い作品です。

ちょっと話が脱線しますが、邦楽の「長唄」、「義太夫」、「常磐津」、「清元」、「新内」って、区別がわかりにくくありませんか？異論はあるかと思いますが、私は次のように理解しています。

「長唄」は歌が中心のオーケストラ。三味線だけでなく、小鼓や太鼓もにぎやかに演奏して、歌詞はひたすら目出度い感じ。「元禄花見踊り」がその典型(先日亡くなった三遊亭円楽、またその先代の円楽の出囃子でした。派手な芸風にぴったりでした)。

義太夫以下は、全部語り芸で、言葉が中心。歌だけじゃなくてストーリーを楽しみます。義太夫は大阪生まれなので、関西弁で、ちょっとだみ声で重々しい感じ。常磐津以下は江戸生まれなので洗練されています。常磐津は歴史ものが多く格調高い感じ。清元は喉を振り絞って高い声を出し、粋の

極み。廓の話が代表。新内は、規模が小さくて歌と三味線の二人だけ。専ら男女の愛、特に心中物を語ります。いずれも例外はありますが、私はこんな感じで理解しています。

閑話休題。ほかに「明烏」を得意にしていたのは、やはり色気のある古今亭志ん朝。バレ噺(ちょっとエッチな話のこと)は、人によっては下品になったり、聴いている方が恥ずかしくなったりするので、文楽や志ん朝のように品のある飄々とした語り口が大切です。

皆さんも、どうかして聴いてみて、是非江戸時代にタイムスリップしてください。

※引用画像は古今亭志ん朝。私は、落語のDVDをたくさん集めています(文楽、円生、米朝、枝雀、談志、志ん朝、馬生、吉朝)。落ち込んだときに心を慰めるのに最高です。 以上



## 春秋会政策シンポジウムを開催しました

政策委員長 中島 宏治(50期)

去る10月7日、大阪弁護士会にて、春秋会政策シンポジウム「弁護士の人権活動は持続可能か～『ひまわり』の活動を通して人権活動の可能性を探る～」を開催しました。

弁護士は、基本的人権を擁護し、社会正義を実現することを使命としていますが(弁護士法1条)、弁護士人口が増大してきた中で、個々の弁護士の志に頼るだけではその使命を果たしていくことが困難になってきているように思われます。

その中で、高齢者総合支援センター「ひまわり」は、人権擁護委員会にルーツを持ちながら、法律相談業務や、成年後見事件に関する業務など、弁護士としての業務につながる活動も行っており、その活動には、「人権」と「業務」を両立させるうえでのヒントや課題が凝縮されていると思われます。

今回のシンポジウムでは、様々な「ひまわり」の活動を通して、業務拡大と課題について活発な意見交換が行われました。パネリストは、辻川圭乃さん、小山操子さん、東奈央さん、中西基さん、松尾洋輔さん、コーディネーターは高江俊名さんでした。

参加者の感想から、「とても勉強になりました。『ひまわり』の活動領域もこんなに広がっていたのですね。業務としての持続可能性、大事ですし難しいです。頑張りましょう。」「ひまわりで拡大されている活動についてそこでの費用の工面も必要でしょうが、日本は、法的な問題を、それぞれの甲斐性の問題だとか欲得や損得の問題と捉え、それぞれが自助努力で片づけるべきという思い込みが政治家、学者などに強いので、やはりそこを変える必要があるように思います。法律扶助の抜本的改革の必要性について説明されたのは、まとめとして良かったと思います。」などと高い評価を受けていたように思われます。

春秋会では、今後も「人権」と「業務」を意識したシンポジウムを開催したいと思います。第2回の政策シンポは、3月7日(金)18:00から、「弁護団活動を深掘りする(仮題)」を予定しています。





## 各派若手会対抗ゴルフのご報告

4位(令和元年)→5位(令和2年)→4位(令和3年)→???

河野 哲平(71期)

令和4年11月19日(土)に有馬ロイヤルゴルフクラブ(神戸市)において、各派若手会対抗ゴルフが開催されました。

春秋会若手会からは7名が参加しました。  
(参加者は、堀智弘会員、飯田亮真会員、佐伯紀明会員、富井和哉会員、村本健司会員、船越智晴会員、河野哲平です。)

4位(令和元年)→5位(令和2年)→4位(令和3年)と低迷していた春秋会の順位は？





団体戦の勝負は最終18番ホールまでもつれ込む大接戦に。

結果, 今年度, **春秋会**は**準優勝**を勝ち取りました!!!

しかも, 優勝会派との差は僅か1打差。

最終18番の最終組の私がグリーン周りでもたつく(※ボールがグリーン上に乗らずに周辺を行ったり来たりすることです。)ことがなければ, 優勝できていました。悔やまれます…

来年こそは優勝できそうです!!!



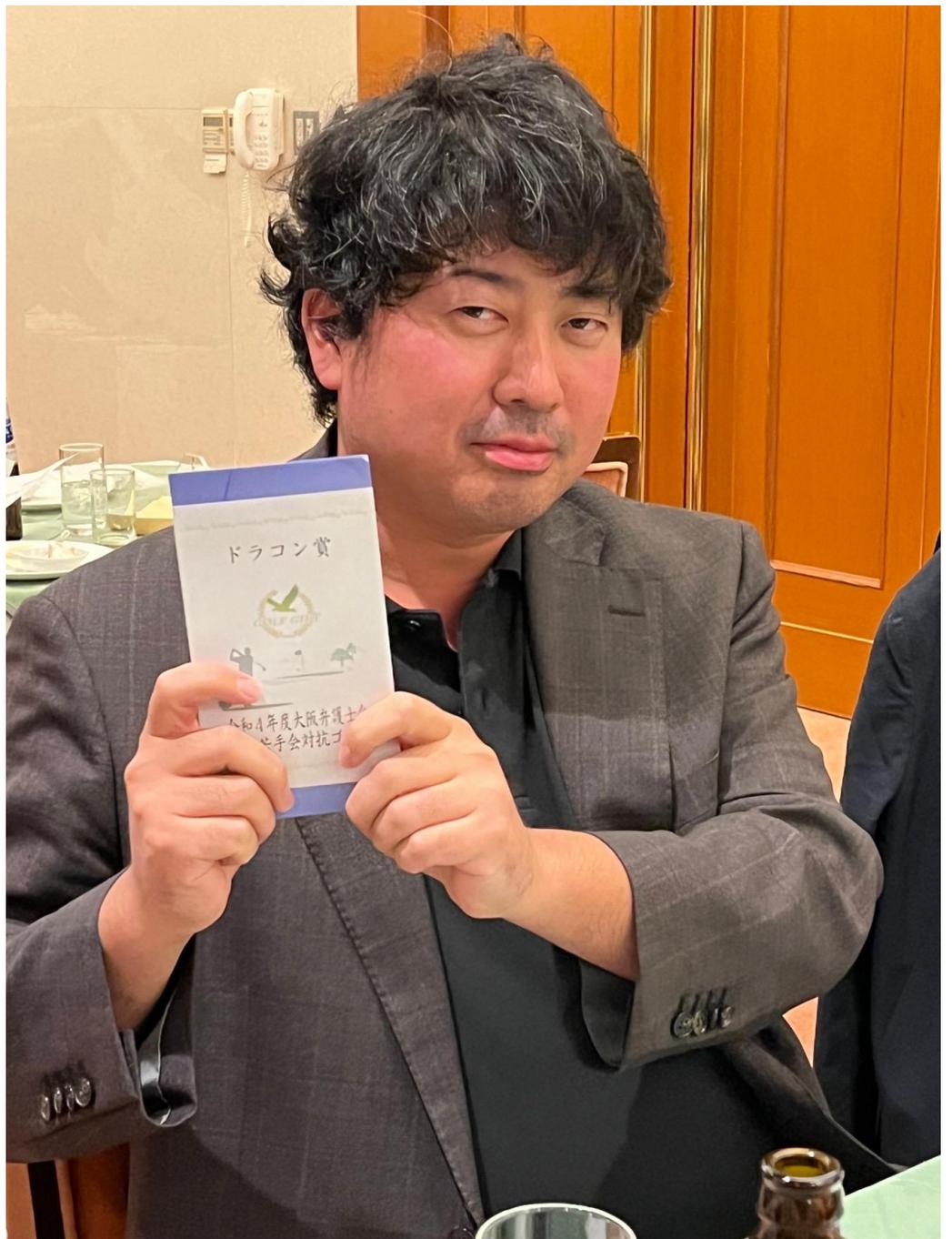
(春秋若手会の参加メンバー)



**(堀会員による準優勝のスピーチは盛り上がりました!)**



**(上位躍進の立役者となった飯田会員!)**



**(今年もドラコン受賞した飛ばし屋の佐伯会員!)**

**富井会員, 村本会員も安定のスコアで準優勝に貢献!!**

団体戦は白熱しましたが, 春秋若手会の参加メンバーは, 各々, 他会派の若手会の参加者と和気あいあいとしたプレイを通して親睦を深めました。

個人的には, 来年の優勝を目指して, 練習に励もうと固く誓った日になりました。

## 「ゆるゆるゴルフ」に来てね♡

広瀬 元太郎(60期)

2022年11月19日(土)、第4回ゆるゆるゴルフ大会が、枚方市楠葉の淀川河川敷で行われた。

私のライバルのN先生が当日ドタキャンする等、まさに「ゆるゆる」も極まった状態で好ましい。すでにご案内の通り、このゆるゆるゴルフ大会は、「ゴルフを偉い先生と一緒に回るなんて畏れ多い」という若手にゴルフの楽しさを知ってもらうのが趣旨である。

「まだ、コースに出るほどうまくないです」という声はよく聞く。しかし、ゴルフが上手になってからコースに出ようという考えは、「論文が不得意だから書けるようになってから答練に行く」と言っている受験生みたいなもので、誤りである。下手でも、コースに出まればいいのだ。前掲のN先生は、打ちっぱなしに行かないことを流儀とし、すべてコースで練習しており、かなり上達している。

80で回っても、140で回っても料金は同じなので、後者の方が得である。他の人に迷惑をかける?気にしないでいい。人が生きるということは、他人に迷惑をかけるということだ。



私はゴルフに人生をかけておらず、別に上手にならなくてよいと思っているので、このゆるゆるゴルフは大好きだ。ゴルフというのは、基本はハイキングである。クラブとボールは、ハイキングに色を添えるスパ

イスでしかない。よって、本来は、スコアを数える必要もないのだが、ルールなので数えることにしている。

私のチームは、最初の組だ。最初の組は衆人環視の下、ティーショットをしないといけないので苦痛である。人に見られると調子が狂う。調子が狂ったせいで、私の打球は、はるか上空に上がって行ってしまった。ドライバーからボールに加えられた膨大なエネルギーは、地球の重力に抗うことに費やされ、前方への推進力に使われず、100ヤード程度先に落下した。隣国発射の飛翔体が描くロフティッド軌道と弾道が酷似している。

気分を切り替えて、ハイキングに徹することしよう、枚方市楠葉は、桂川、宇治川、木津川の3つの川が合流して淀川となる地点である。古来からの交通の要衝で、1582年に本能寺の変を起こした明智光秀が岡山から引き返し

てきた羽柴秀吉と衝突した天王山もすぐそこに見えている。

2022年の現代においても、名神高速、JR東海道本線、新幹線、阪急京都線、国道171号線、京阪電車が1キロ程度の幅に集まる重要地点である。狭いエリアにここまで集めるのは国防上いかなものかと思うくらいである。さらに、この地点を東西に貫く第二名神高速道路が工事中である。淀川を渡る橋梁の橋脚はすでに完成している。



足許に目を移すと、カラスや千鳥が、人間の打つ打球など関係なくフェアウェイをうろうろしている。このカラスという鳥は厄介である。前々回のゆるゆるゴルフ大会で、売店で買ったはちみつ

レモンをカートに置いていたところ、半分カラスに飲まれてしまった。さらに、そのことに気付かずに、私は残りの半分を飲んでしまった。その事実気付いた後、コロナと鳥インフルエンザの二重感染の恐怖に襲われものだ（発症せず）。彼らは、プラスチックのコップの蓋を開けるくらいの知能は有しているので注意する必要がある。

このような感じで試合が終わり、私は準優勝の栄誉をいただいた。ゆるゆるゴルフの流儀は、打数の多い方が讃えられるのである。記録によると、私の打数は147程度なので、ゴルフ代10,700円÷147、一打あたり72円とリーズナブルである。で、勝利の美酒に酔い、その後の2次会で好きなことをしゃべって帰る。最高である。

コースに出たことの無い若手（若手以外も）のみなさん、いつでも勝負するので、ぜひご参加されたい。

## ワインのタベ ご報告

浦 寛幸 (59期)

令和4年11月22日、リーガロイヤルホテル大阪・リモネにて、3年ぶりなるワインのタベが開催されました！コロナ禍の中、37名の多数の方々に参加いただきました！



岩本朗先生の開会のご挨拶をはじめに、ソムリエの岡さんによるワイン解説とともにそそがれるワイン、そして、リーガロイヤルホテルの美味しい料理を堪能しました！



今回のお料理は、

- 1 ブリのカルパッチョ柑橘のエシャロットのドレッシング
- 2 ミネストローネスープ
- 3 愛知産 真鯛のポワレ アーティーチョークのブルテ
- 4 牛肉の軽い煮込み トリュフクリーミーソース
- 5 デザート盛り合わせ

でした!どのお料理も美味しかったのですが、特に、メインディッシュはトリュフの香りが豊かでお肉もやわらかくてとても美味しかったです!

そして、気になるワインのラインナップは以下のとおりです!

- 1 フジクレール・シャルドネ・  
スパークリング  
〈フジッコワイナリー〉2019年  
日本/長野・山梨



- 2 マコン・ヴィラージュ  
〈ルイ・ジャド〉2020年  
フランス/ブルゴーニュ



- 3 ヴィノ・フォリオ・ピノ・グリージョ  
〈キューザ・グランデ〉2012年  
イタリア/アブルッツォ

- 4 ダイヤモンド・コレクション・カベルネ・  
ソーヴィニヨン  
〈フランシス・コッポラ〉2010年  
アメリカ/カルフォルニア



- 5 ピノ・ノワール  
〈フドリッヒ・ベッカー〉2019年  
ドイツ/ファルツ





最後は、あまったワイン7本の争奪じゃんけん大会!親睦委員長の宮下先生の、「最初はウィッシュ!」という謎の掛け声で始まり、大盛り上がりでした!その後、最後は飯島幹事長のごあいさつで閉会となりました。ご参加いただきました皆様並びに、ソムリエの岡さんをはじめホテルの皆様、ありがとうございました!とても楽しいひと時を過ごさせて頂きました!皆様、次回もまた是非ご参加ください!



## 今月の一曲～ 二人だけのデート (I only want to be with you) ～

青木 佳史(41期)

若い頃には見向きもしなかった曲にふとしたことで再会し、今度はすっかり惚れ込んでしまう、ということがある。年をとるのも悪くないな、と感じるときでもある。

中学時代、スコットランドからやってきたアイドルグループ「ベイ・シティ・ローラーズ」が女子中高校生を席卷した。タータンチェックに、金髪に青い目の5人組バンドが歌って大ヒットしたのが「二人だけのデート」。NHKのヤングミュージックショーで特番が組まれるほどだった。



キャンディ・キャンディに出てきそうなルックスと甘ったるい声にのせたポップな曲に女子はメロメロ。かたや男子はといえば、やっかみしかなく、やれ、あれはロバクだ、やれ、ギターもベースも自分で弾いていないぞ、やっぱエアロスミスだよな、いやリッチーブラックモアは凄いぞ、などとくさして溜飲を下げていた。

(ベイ・シティ・ローラーズの演奏) <https://youtu.be/CGD27WgtKhI>



彼らのブームはその後あっという間に下火になり、この曲がラジオや街角でかかることもなくなった。それもあって、嫉妬深い音楽少年は、この曲が、イギリス随一の人気女性ポップス歌手、ダスティ・スプリングフィールドさんが大ヒットを飛ばした1963年のデビュー曲のカバーであることも、ベイシティのカバーもイントロに印象的なベースラインと

エコーの効いたドラムを加えることで70年代ポップスへの巧みな編曲がなされていることも、完無視のまま、いつしか忘れ去っていった。

(ダスティ・スプリングフィールドのデビュー曲)

<https://youtu.be/5RhsUpVRiY>

時は流れて2008年。P・バラカンさんのFM番組で流れてきた歌に耳を奪われた。ジャズギターにベースとドラム、ピアノのゆったりとしたテンポで憂いを帯びた女性ボーカルが歌い出す。テンポや雰囲気のアマリの違いに最初は気がつかなかったが、聴いてるうち、これって、あれあれ、ベイシティの「二人だけのデート」やん!

30年余りを経て、すっかり若気も失せて寛容になった頃合いに、こうして名曲に邂逅する幸運が訪れた。

演奏は、アメリカのカントリー・ポップ歌手のシェルビー・リンさんが、名匠フィル・ラモーンのプロデュースにより、ダスティ・スプリングフィールドのヒット曲を集め、ジャズマナーでレイドバックたっぷりのサウンドで再構成した傑作アルバム「Just A Little Lovin」に収められている。ダスティさんの原曲の軽快感とも、ベイシティのポップさとも、異次元にあるシェルビーさんの力みのない静謐な歌で、メロディと歌詞自体の良さが引き立ち、「あなたといたいだけなの」というサビの意味まで別の深みを帯びていた。



(シェルビー・リンの演奏) <https://youtu.be/f3AjWvSJ-3k>

アルバムは他のどの曲もアメリカ南部の空気を感じさせる秀逸な演奏になっている。雪の舞い散る時節になると取り出してきて、暖かくした部屋で、蠟燭なんか灯して聴いていると（ホントは暖炉があってバーボンでも飲めたら最高なんだろうけど）、年を取るのも悪くないなあ、としみじみするのだった。

※ I only want to be with you のいろんな色合いのカバーはこちらから。

<https://open.spotify.com/playlist/4o2yur0CdWvDOs5utaTDb?si=eef4b18b6c8f41c4>

※ シェルビー・リンの「Just A Little Lovin」全曲はこちら。

<https://open.spotify.com/album/1Qp047VBGL9d1PkHWKuqG5?si=pmsOHslvQG-tF3tdJ-IV7w>



## 見えないところで — 嘱託弁護士と会計監事 —

政策委員会副幹事長 松井 淑子 (51期)

2022年春秋会、飯島執行部の政策委員会担当の副幹事長の松井です。政策委員会は今年度、中島宏治委員長のもとで月1回の打ち合わせを行い、春秋会政策委員会ならではの企画を実行しています。5月には日弁連の情報セキュリティ規定案に対する緊急検討会、10月には高江俊名先生をコーディネータとして「弁護士の人権活動は持続可能か」と題し、「ひまわり」の活動で活躍されている先生方を招いてのシンポジウムを開催しました。いずれも実際の弁護士業務と関わりながら、普段、なかなかまとまった時間で勉強をすることがないテーマだったかと思います。そして3月には、孤高の弁護士業務とは異なるチームプレイ、「弁護団活動」に焦点を当てる予定です。

政策委員会に限らず春秋会の各委員会からは次から次へと、普段の弁護士業務だけでは限られた視界の中、異なる視点を提供すべく企画が実行されていっています。春秋会メーリングリストでもそうした各委員会等の案内に目が行くことかと思っています。

ただ、こうした活動も、目に見えにくい地味な活動、下支えがあつてのことというのを改めて実感しています。例えば、嘱託弁護士。例えば、会計監事。

この9月、2年の任期を終えて、嘱託弁護士を担当していたただ小野宙先生が退任されました。月一回の幹事会、正副幹事長会、そして年3回の総会の段取り、議事録、案内作成等を支えて頂きました。そして会計監事は今年度、荒木晋之介先生にご担当いただきました。前年度の1年間の春秋会のお金の動き、600人を超える会員から支払われた年間2万円の会費の行方についてチェックし、9月の総会で結果を報告いただきました。監査には相当な時間、労力、知見を要したことと思います。

600人を超える集まりが有機的に機能的に活動するため、見えないところで多くの弁護士がその時間を使ってくれている、副幹事長という形で改めて春秋会に関わらせて頂き、日々、実感しています。

とはいえ、いまだに何よりも驚いているのは飯島幹事長の奮闘ぶりです。前を行く超高速走りの中、支えるべきところ後ろをドラフティングさせていただいている状態です。今年度末2023年3月まであと半年、チーム飯島、幹事長にちぎられないように心拍170まで上げていきたいと思っています。

## ニュースレターの原稿大募集します

広報委員会といたしましては、このニュースレターを双方向的なものにしたいと思っており、皆様の原稿を大募集します。ぜひ、投稿ください。

- 1 今までのニュースレター・会報の記事に対するご意見
- 2 子育て体験談
- 3 変わった国に行った旅行記
- 4 ペットや趣味の紹介
- 5 感動した本、マンガ、ゲームの紹介

下記にお送りいただければ、ニュースレターに掲載させていただきます（もちろん、一定の審査はさせていただきますが…）

[horikawa@lion-law.com](mailto:horikawa@lion-law.com)